

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No. 83

2010年1月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



撮影 坂 弘毅

寅年に第二の創業を！

うしく里山の会 代表理事 坂 弘毅

新しい夜明け 牛久沼ご来光

あけましておめでとうございます。

皆様におかれましてはお元気に「越年のことと拝察いたします。」

昨年は皆様方のご支援によりまして大過なく新年を迎えることができましたことあらためまして厚く御礼申し上げます。

うしく里山の会は昨年十月、設立から五年が経過しました。この間皆様のご支援によりまして会は大きく前進することができました。受託事業も徐々に増え、うしく里山の会の運営に多少なりとも寄与できるようになって参りました。

このような状況を踏まえ、今年は二つの大きな改革を考えております。今年の干支は「寅」、寅の刻とは早暁の四時頃、即ち曙です。この干支にあやかり、うしく里山の会の第二の創業の年にしたいと考えております。

牛久自然観察の森を指定管理者としての運営をはじめから今年は五年目の最終年度となりますが、この四年間ソフト面の充実を図り、三万人弱の年間来園者も、六万人の大台を超えるまでになりました。これも偏に職員の努力と会員各位のご支援の賜と思えます。今年是指定管理者の最終年度となりますので、更なる実績を残して次の指定が受けられるようがんばります。

もう一つ大きな改革は、会の自立です。定款を変更し、収益事業に看板を掛け替えたいと考えております。これにより財務状態を改善して、新しい事業が容易に展開できるよう検討を進めて参ります。

このようになうしく里山の会に改めてご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト
活動報告

第二回中央地域巨木ガイド

本年度の「巨木ガイド」グループ（G）の活動は三回予定しており、二回目は十月四日（日）中央地域で実施しました。

朝から秋晴れの中での活動となりました。参加者は、一般公募者二九名、巨木リサーチガイドG九名、市側から一名の総勢三九名です。午前八時三〇分過ぎ市役所を出発し、十分後に岡見町の八坂神社に着きました。ガイドの始まりです。

ここでは「市民の木」のスギをモデルに樹木の測定器を使って実演。その後二つのグループに分かれて行動しました。二本のスギの測定結果や「診断G」の診断内容を紹介。次いで、資料を使って鳥居の三つの形態を紹介し、当神社の鳥居は「明神鳥居型」であることなどを説明。また境内で一番古い寛政五年造立の石祠型の道祖神を紹介しました。

九時五〇分、上柏田日枝神社に移動。「市民の木」のスタジイ・スギの測定結果の説明とともに、これらの木の幹が小枝やマダケで覆われていたのを「巨木管理G」により除去管理し、「診断G」により診断を行った内容を紹介しました。

その後、トイレ休憩のため中央生涯学習センターへ、十時五〇分柏田町柏田神社へ移動。まず参道入り口広場で、似ている常緑針葉樹のサワラとヒノキの見分け方を葉の実物を渡し、それを見ながら説明。参加者の皆さん、目の前の実物を見比べ納得。参道に入り古木のアカガシ、サワラ、シラカシ、モミの順に測定結果や樹木の特徴・用途を説明し、境内で最も古い石祠を紹介。更に神社創

巨木リサーチ2事業報告

石川 満夫



立が市内最古の天正年間、明治時代に村社になったことを説明。鳥居は八坂神社での説明の復習で、「明神鳥居型」であることを説明しました。

それから神社近くの民家に徒歩で移動。屋敷にそびえ立っている巨木のケヤキを紹介。その見事な木に皆さん感動。測定結果や用途などを説明。

その後、バスでシャトーカミヤへ移動。希少木のイイギリ、イヌシデ、ダイオウシヨウを紹介。イイギリは雌雄別株で、葉が落ちて球形の果実が赤く熟した姿は壮観であることを紹介。ダイオウシヨウについては落下している針葉を手に採って、葉が三針束生でマツ属最長であることや、大きなマツカサを示して説明しました。

十二時三〇分、無事にガイドを終了。アンケートを回収、シャトーカミヤで解散となりました。



上柏田日枝神社の由緒の説明を聞く参加者

渡辺 09.10.4



あやめ受託事業報告

中村 正人

あつという間の六ヶ月

先日「次回のアヤメ報告の原稿の提出よろしく」との依頼がありました。アヤメプロジェクトに参加してまだ六ヶ月とアヤメの知識に乏しいこの私、アヤメの成長過程の近況を話したくても、皆さんが納得される内容のある報告ができません。何を報告するのか、何を書いていいやら困り果てました。そこでアヤメ園での日常や作業メンバーの紹介、自分なりの目標を思いつくままお伝えすることにします。

私は雑草取りの作業をするとき、ちよつとオーバーな表現ですが「死んでも手を休めることはならない」という、自分なりの行動基準を定めて、常にせわしく手を動かしています。メンバーも手を止めることなく作業していますが、メンバーは、口から先に生まれたかのように、たわいのない話から自慢話、時には人のうわさ、政治経済に至るまで作業が終了するまで話が尽きることがありません。本当に話題豊富なメンバーです。私は無口な上、人見知りの性格のためか、蛇にいらまれたカエルのように聞き役に終始している今日この頃・・・。

また、このメンバーのパワフルなことにはいつも感心させられます。それは、それぞれがアヤメ以外に得意分野を持ち、力を発揮し常に自信を持って行動しているからです。その姿には男の私ですら惚れ惚れすることも（笑）。山野草の達人や、虫を育て鳴かす昆虫博士（時には女も泣かす）、星座に詳しい顔に似合わずロマンチックな人や、キノコ作りの達人、山が恋人でチョイ悪オヤジの鉄人や、酒とカラオケにめっぽう強いが女性には弱い達人など、よくもこんなに各ジャンル別の達

人、鉄人がそろったものだと思えます。みんなユニークで心優しい元イケメン、元ギャルです。取り留めのない話で紙面が少なくなってしまうましたが、私たちの日頃の楽しい活動の様子を思い描いていただければ幸いです。

アヤメプロジェクトに参加してから、何もわからず言われるままに週二回の作業をスタートさせましたが、時には厳しい指導に涙し、過時間の作業で体調を崩したりと無我夢中の日々でした。・・・少々ジョークが強すぎですね。実際は毎回楽しくて、笑いが絶えない、あつという間の六ヶ月であつたと思います。本当ですヨ。メンバーみんなに感謝！感謝！です。

最後になりましたが、私のアヤメ園での目標は、大きなアヤメの花を咲かせること。来園者にアヤメを見て楽しみ喜んでいただくことです。自然豊かなアヤメ園を多くの人に愛してもらうために私も達人、鉄人に近づけられるようにマイペースでちよつびり努力をしたいと思えます。「そうですネ、ウツフ」とアヤメ園からメンバーの声が聞こえた気がします。

今年もアヤメプロジェクトにご期待下さい！



作業中、口も動きますが手も動きます
佐藤 09.12.10

街路樹

チーム街路樹20 受託事業報告

増田 勝彦

「近代街路樹発祥の地」を訪ねて

横浜、石川町は、ジャズとワインが仄かに香るエキゾチックな街だ。今回の見学地は、ペリー提督が安政四年に幕府に開港を迫った観光都市横浜である。

石川町の改札をでて、メイン通りの元町とは逆の生活道路を歩くこと三分。見上げると「山手イタリア山公園」に繋がる長い石段がある。企画段階から心配した急勾配であつたが、今回は参加者年齢が若いせいかな難なくクリア、みんな元気いっぱい。日本の道百選に選ばれた「山手本通り」の手前にあるこの公園は、明治十九年にイタリア領事館があつたことから（イタリア山）と付加された。

ここでKさんが、手作りの「チーム街路樹20」の先導旗を初披露、黄色地にケヤキ風の樹木のデザインで、大好評の内に旗を真ん中にして記念撮影。園庭の重要文化財「外交官の家」を見た後は山手本通りへと入る。この通りは、人がすれ違ふのがやつとという石畳の狭い舗道で、片側一車線、閑静な住宅、教会、ミッシェンスクールの間を割って、海に見える丘公園へと抜ける。3kmの歴史の道である。街路樹は狭い舗道に、タブノキ、ケヤキ等が不規則な間隔で植えられていて目立たないが、少し遠慮気味で、なぜか好感がもてる。

やがて「元町公園」に到着。公園の奥には元貿易商の私邸「エリスマン邸」が建つが、平日のため静か。休日にはテラスでミニコンサート等が開かれ、行き交う人の憩いの場となる。外人墓地を左手に見て歩くこと十分で、港の見える丘公園に到着。横浜市内の観光スポットを一望できる夜景は、来訪者の評価も高い。ここから山下公園のイチョウ並木までは、フランス山公園を超えて十分ほど。フランス山の命名は文久三年に、フランス海兵隊が駐留してい

た名残で、小高い丘となっている。うつそうとした木立に覆われた散策路があつて、様々な樹名板が付けられていた。黒い溶液に浸したのか、またはまたバーナーの火で炙つたのか、こげ茶っぽい板に手書きの白い文字がくつきりと浮かんでいて見栄えがいい。素人でも簡単に作れそう、次代の樹名板として検討の価値有り。

日本の道百選の山下町のイチヨウはこの季節、オレンジ色に輝く葉を身にまとい、道狭しと枝を広げる。剪定されて、屍のようになった牛久の街路樹ばかり見ている私にとっては別世界だ。曇り空で山下公園ベンチ前の海は、どんよりとした波形を描く。氷川丸の係留鎖に羽を休めていたカモメたちを数枚写して、予約済みの大棧橋前のレストランへ直行。店内は、ピンクのテーブルクロスの上の小さなバスケットに、ナイフ・フォークがお行儀よくおさまっている。料理を頼み、コーヒをお代わりする。ここで一時間ほど休んで、笑顔で午後の見学へ。すぐ隣のビルのシルク博物館前に、大きな桑の木が植わっていた。開港時に植えられた樹齢約一五〇年の古木だと、地元の古老が教えてくれた。

へ〜と感心しながら信号を渡り、通称「大さんばし」へ。正しくは、「横浜港大さんばし国際客船ターミナル」と呼ばれていて、二〇〇二年の竣工で設計は英国人。外観は、天然芝と船の甲板をイメージしたウッドデッキで、環境にやさしい造りとあつて歩きやすい。記念撮影後は日本大通りへとスタスタ歩く。

横浜の古い建造物が立ち並ぶオフィス街だが、金色のイチヨウ並木と、風に舞う落ち葉の競演に思わず息をのむ。さらに横浜公園（横浜スタジア

ム）を抜けると馬車道へ。「近代街路樹発祥之地」と刻まれた茶御影石の石碑が、ひっそりと建っていた。馬車道の街路樹は、慶応三年に商店主がヤナギとマツを植えたのがきっかけだという。その後日本初のガス灯がともされると更に美しく映えて、道行く人々の心をなごませた。今はモミジバフウにとつて代わつたが、これも時の流れなのか。

そうこうする内に、最終見学地の伊勢佐木モール街は目前。JRの高架をくぐると、カツラ・ケヤキ・ネムノキの大樹が、色とりどりに商店をおおっている。レトロな街路灯もあつて、モダン溢れるおしゃれな街である。この時、ポツリポツリと雨粒が落ちてきた。目的地をすべて見学した後とあつて、心おきなく関内駅に急ぐ。

殺風景な街路景観の牛久に降りたつたのは、五時半を少しまわっていた。



日本の道百選「山下公園通り」

増田 09.11.24



親子農業体験講座

(一般参加)

青木千日代

やっとソバ粉に直面

四月から雨天順延が一度もなく、全戦全勝記録を更新中の親子農業体験講座もいよいよ最終段階、そばの収穫です。

十月三十一日、年間予定より一週遅らせてそば刈りを実施。前の週は、そばの花もまだ残っていて中身も液状のままです。結実不十分でしたが、この日はいくらか黒くなっていたので一安心。鎌でざくざくと刈って、まとめて畑の北側の乾燥施設（青竹製）へ運搬して干すのですが、茎に土をつけない、しかもよく乾くように長めに刈るといのはなかなか難しく、コツを掴むまでにだいぶ地面に実が落ちたような気がしますが、なんとか全部刈り取りできました。が、刈り取って左手に掴んだ束が毎回やたらと軽いので、何だか嫌な予感。世が世なら飢饉かも。

十一月七日、足踏み脱穀機と手で落とすチームに別れて、ブルーシートの上で実落とし。子供たちは豪快にグルグル回る脱穀機に興味津々で、すぐ手を出そうとするので安全確保がたいへんでしたが、何とか全量を処理し、貴重な実を集めて紙袋へ。実よりも枯れ葉とホコリが多い？終盤には実の中から謎の芋虫（蛆虫サイズ）が大量発生し、大人も子どもも悲鳴を上げながら、しかし蕎麦のために耐えねばならぬこともある、歯を食いしばって手で一匹ずつ駆除。帰宅してから調べたら、おそらく「夜盗蛾」の弱齢幼虫。恐ろしい害虫で、危うく全滅するところでした。

二週間後の二十一日、乾燥できた実を唐箕にかけて選別。ここに至るまでの間、乾燥を分担してくれた各家庭では例の芋虫がまたまた出現し、玄

関を這いずり回っていたそうです。「二キ口撒いたのに、収量がそれより少なかつたらどうしよう」「唐箕のハンドルってどっちに回すの?」など初心者のな会話が飛び交いつつ、大量のゴミを吹き出しながらも、唐箕から貴重なソバの実がザラザラと出てきたときには「おおーっ!」と歓声があがりました。観察舎の石臼に少し入れてみました。が、実は潰れたものの白からは粉が全く出て来ず、完全に乾燥するのは難しいとみんなで納得して、ソバの実製粉所へ。

翌週二十八日、美しい粉になったソバと対面。ソバの実は六・五キ口、さらに製粉して四・二キ口になったのだそうです。残念ながら史上最少の収量で、受粉期の台風が恨めしい限り。全国的にも不作だったと自分たちを慰め、子どもたちと一緒にデジタルスケールで正確に計量して袋詰めしました。

次回、感動の最終回「そば打ち」をお楽しみに!



実が落ちないように! そーとそばを刈り取る
前田 09.10.30



里山自然観察隊

平塚 芳雄

「里山を歩こう」と「第五回植物観察会」

について

「里山を歩こう」はうしく里山の会主催「里山の秋祭り」の一環として去る十一月二十九日(日)に実施。当初心配された天気も杞憂に、風は少し冷たかったが快晴に恵まれ予定通り行えた。

参加者は十五名。内、一般参加者は親子二組を含む九名。プロジェクトメンバーが六名。

当日朝九時半、森のバツタの原で行われた「里山の秋祭り」全体の簡単な開会式の後、里山歩きはバツタの原からスタート。ネイチャーセンター(ＮＣ)に通じる道筋をモグラによる土盛りの跡や日時計・百葉箱なども話題にしながら進む。ＮＣ付近ではシラカシのドングリや幼木の群生なども確認、観察舎に通じる観察路の杉林へ。途中、実を付けている草木や枯れているのが元の形を留めている野草を観察したりスタジイの実を試食したりして一時間以上をかけた観察舎前に到着。熟した実を付けた柿の木に次々に飛来する野鳥の名を挙げるなど暫しの休憩の後、ビートルズトレイルに出る。林縁の最盛期を過ぎたが未だ赤い実を付けてるゴンズイ、マユミ、サルトリイバラ。更に、カラスウリ、センダン、ムラサキシキブの実も。初冬の景観や植物相を楽しむ。幼い子供達にとっては少し退屈なところもあったと思われるが、野道を走ったり草木の実に触れたりして家族と過ごせたことは何よりなことと思う。十二時二〇分頃ＮＣ前に無事帰着。

今年度最終回の「植物観察会」は十二月十二日(土)、島田町の雑木林二カ所で行った。当日朝九時、観察の森駐車場に集合したのはプロジェクトメンバー八名。その他にインターネットで知ったとのこと。

社会人三年目の若い男性が特別参加。東京の荒川区から来られたとのこと。

現地には乗用車二台に分乗して向かう。奥野生涯学習センター近くの雑木林の調査から開始。十メートル四方の区画を設定、区画内の樹木の種類、幹周を測定。樹高は市役所から借りた測定機トルーパールスで。一時間ほどかけ、高木、灌木十四本を測定。

続いて数キ口東の雑木林に移動、同様に高木、灌木十二本を測定。どちらも下草刈りなどの管理がなされているためか灌木が少ない。調査も余り時間をかけずに行い、十一時過ぎには現場を立ち予定より早く観察の森駐車場に帰着した。

これで観察隊の今年度の主たる活動は終了。今後は調査結果を整理しまとめる段階に。



ビートルズトレイルに行く里山歩き一行
本田 09.11.29



雑木林応援隊

竹越 敏雄

ツルかご教室

去る十一月二十九日「うしく里山秋祭り」が開催され、雑木林応援隊としては、「ツルかご教室」を実施しました。参加者は、「広報うしく」で応募された二十名プラス飛び入り三名の計二十三名、会員を含め総勢三十四名の参加者で盛況に終わりました。

応援隊としての、「ツルかご教室」の実施は、さかのぼる事二〇〇二年十一月十三日に、前身の雑木林の会で森林整備の際に「じゃまモノ」扱いのツルを何とか有効活用を出来ないか皆で検討をした。その結果、昔の人はつるを使った日常品を生活の中に活かしてきたかご編みに使ってはどうかから始まった。しかし、かご編みの知識はまったく無く、皆でいろんな書物やインターネットなどで編み方を調べ、最初は会の中だけで実施していたが、来園者が我々が行っている作業を見て、是非参加したい声などが有ったのでそれから、自分達の勉強も兼ね、ほぼ毎年、応援隊の恒例行事として実施していた。一般公募したのは四年前からと思います。

当時は、小雨の中、総勢二十六名の参加者で、梅林のあずま屋で実施したと記憶しています。ツルも色々な種類が有りますが、我々の技量から籠に出来るのは、藤、アケビ、葛などが一番扱い易く編み易い。

毎回参加者の皆さんから好評頂いていますが、ツルは森林整備を行う者からすると、悪者で嫌われています。時として、木に巻きついて、巻きついた木を絞め殺し枯らしてしまします。

また、地面に張っているものは、草を刈る際、刈払い機の刃先に絡みつき、暫し機械を止め取り除く作業も増え嫌われます。

有名な京都北山杉で床の間などに使われる床柱は、表面に模様が付いているのが珍重されます。これは、木の成長時、わざと木に当て木などして成長を妨げ、木肌に凸凹した模様をさせた木を特別に作っています。

自然の木ではこうは行かず、木が曲がりたり成長を歪めたり、また、成長が止まり、中には木の養分も吸い取られ、最後は枯れる運命です。それゆえ自然に付いた藤などは綺麗な花を付け、勿体無いですが、切取ったほうが木にとっては非常に良のです。

取ったツルは、きちんと管理保管すれば長持ちし、「つる籠」等に利用の際、水に一晩位浸けておけば、編みやすくなり有効活用をしてあげれば一石二鳥のエコになります。



完成したツルかごです 竹越 09.11.29

うしくくらし環境まつりに参加して

佐藤 輝雄

十二月五日(日)牛久市中央生涯学習センターで「うしくくらし・環境まつり」が開催され、うしく里山の会・牛久自然観察の森でも協力参加しました。会場には里山保全(エコアップ)のパネルや丸太タワー・間伐材を使ったクラフト作り・スタードームの展示を行い、会場に来られたお客さんに「私のエコ宣言」を短冊やタラヨウの葉に書いて、スタードームに下げてもらいました。会場では林マヤさんの講演も行われ盛大に終了しました。スタードームは地方紙にも取材され皆さん感動していました。



スタードームの中でエコ宣言

チエーンソー特別教育講習会のお知らせ

渡邊 浩美

チエーンソー作業従事者の特別講習会を行います。

日時 平成二十二年一月十日(日)・十一日(祝)

八時三〇分～十六時三〇分

場所 牛久自然観察の森

講師 新潟県 NPO法人「木と遊ぶ研究所」

費用 一万円

申込締切 平成二十二年一月八日(金)

講習終了後は修了証を発行します。

申込・詳細は牛久自然観察の森(担当・渡邊まで)



さとやまセミナー報告

渡邊 浩美

去る十一月十四日(土)牛久自然観察の森ネイチャーセンター・レクチャー室におきまして、平成二十一年度第二回里山セミナーが開催されました。今回は、講師として茨城大学農学部 附属フィールドサイエンス教育研究センターのセンター長で教授の佐合隆一(さごう りゅういち)氏をお招きしました。

今年度、うしく里山の会は茨城大学の支援をうけ、在来作物栽培プログラムを実施していることもあり、『人里雑草の生い立ちと変遷』と題しましてセミナーが開催されました。当日は雨天のため作業等が中止となり、他のプロジェクトや「有機菜園講座」や「NPO法人エコライフの会」の方も参加され、参加者は二十五名でこれまででは最多の参加数となりました。

さて、佐合氏は雑草生態および防除に関する研究や環境負荷の少ない農業技術開発、人里域から農耕地の雑草を生かした理想的植生を実現するための技術開発などを研究されています。

「雑草とは？」に始まり、植物の生い立ちをたどり、帰化雑草の詳細の解説をしていただきました。帰化雑草とはもともと日本になかった植物ですが、人々が行きかい、農業と共に日本中に広がっていった歴史をじっくりと聞くことができました。様々な農作物の種と共に入ってきた雑草は、その環境に合わせ新たな種類へと分化していきました。そして、現在では除草剤に抵抗性のある雑草が出現し、新たな問題となっています。

印象に残った話は、雑草の中にも小さくてきれいで抜きやすい雑草が減り、大きくて見栄えの悪い雑草が残ってしまったということです。人にとつてのぞましい雑草もあるんですね。

さて、この日は、石神園長の「熱血スケッチトーク」についてのレクチャーも行われました。地面の上だけでなく、地面の中まで掘りおこし根っこまでふくめた野草全体をスケッチするコツを聞くことができました。

参加者からは、「雑草に対する見方が変わった」「自然を大切にしたい農業はどうしたらいいか考えさせられた」等々の感想が寄せられました。身近にあってもあまり知られていない雑草に参加者の皆さんは興味をもたれたようです。一時間三〇分の短い時間でしたが、充実したセミナーでした。



セミナー会場では皆さんメモをとりながら熱心に講義を聞いていました

運営委員会からのお知らせ

坂 弘毅

うしく里山フォトコンテストのカレンダーができます。ご期待ください。

うしく里山秋祭りの反省会

今年第二回を迎えた秋祭りですが、七〇〇名を超える来園者でにぎわいました。第一回の比較、農産物販売の協力者の意見、アンケート、会としての反省など種々データを元に来年度に向けての反省会を行いました。

里山セミナー(予定)

三月十四日(エスカート生涯学習センター)「農を通して知る里地里山」(仮題)

講師調整中

通常総会の日程が決まりました。

五月十六日(日)午後一時より

ネイチャーセンターにて

会員の皆さん

この冬は

「新型インフルエンザ」

体調管理に充分

留意してください。





里山秋まつりのスナップ写真



(撮影 坂)



祭り開始前のミーティング



朝市の準備に追われる



この卵美味しいよ！



ツルかごつくりの受付はここで



秋の里山を歩こう



森の博士認定試験に挑戦 ？？



これ、違うかな？



木の高さはこうして測定します



スタードームに里山への思いを



森のクラフトつくりには挑戦



スタッフが見本に作りました



落ち葉に埋もれて大はしゃぎ



ちびっこたち、落ち葉集め、頑張り！



もう、こんなに集まったの？



フォトコンテストの受賞者全員で

1月の里山カレンダー

活動日は天候等都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
					1 (休園日)	2 (休園日)
3 (休園日)	4 (休園日)	5	6	7	8 エアアップ作戦 9:00NC	9 里山自然観察隊 9:00NC 雑木林応援隊 9:00炭小屋 (会報等原稿不切)
10 雑木林応援隊 9:00炭小屋	11 (成人の日) 雑木林応援隊 9:00炭小屋	12 (休園日)	13 (休園日)	14 森の畑 13:30畑	15	16
17 運営委員会 9:00NC エアアップ作戦 13:00NC 巨木リサーチ2(特) 9:00NC	18 (休園日)	19 チー△ 街路樹20(受) 8:30ボランティアC (巡回管理) 森の畑 13:30畑	20	21	22	23 チー△ 街路樹20(受) 13:00市ボランティアC (交流会)
24 雑木林応援隊 9:00△ジナ (竹林整備)	25 (休園日)	26 森の畑 13:30畑	27 会報発送 13:00森	28	29	30
31						

凡例 森:観察の森, NC:観察の森ネイチャーセンター, P:駐車場, 炭小屋:観察の森駐車場奥の炭小屋, 畑:観察の森駐車場奥の畑, コジユケイ:観察の森内コジユケイの林, 観察舎畑:観察の森内観察舎前の畑, △ジナ:結束町の雑木林(通称△ジナの里), 市役所:牛久市役所本庁舎, アヤマ園:三日月橋観光アヤマ園, (受):受託事業, (特):特別事業, (休園日):観察の森休園日, ボランティアC:牛久市ボランティア市民活動センター

編集後記

あけましておめでとございませう。
会員の皆様も素晴らしい新年をお迎えのことと
思います。今年も欲を張らずに心身ともに健康であること
を願う私です。

私が小学生の頃の正月は旧正月でした(二〇一〇年
の旧正月は二月十四日)。正月の遊びというと、天気
の良い日は「たこあげ、はねつき、べいごま、パー
(めんこ)・・・」、家の中では「すごろく、福笑い、
カルタ取り・・・」などでした。その他に冬は「ごむひ
き」(ゴム糸を木の枝のYに結んで小さな石を打つパ
チンコ)等で小鳥を獲った(今では考えられませんが)
思い出があります。

つくば市の農家で育った私の環境は、家の造りは茅
葺で、台所などは天井がなく屋根そのものです。暖房
は火鉢と炭でのコタツのみで、室温は外と変わりませ
ん。そして雪も三〇〜五〇cmは積りました。室内で
も綿入れ半纏を着こんで寒さをしのぎます。しかしあ
まり風邪などは引かなかったと思います。今という工
コそのものです。

ところで、エコカー・エコバック・エコキュート・
エコポイントなど「エコ」のつくことは多くありま
すが、エコということをあらためて調べてみました。
(皆さんは今更なに?と思われるかも)。

エコ=和製英語で「エコロジー・Ecology」から発
生している。

エコロジー=生態学(環境と生物の相互関係を研究
する)の意味で、近年環境破壊や公害問題が表面化し
て、生態学が注目されるようになり、エコロジー運動
等のことが生まれました。そして次第にエコロジーとい
うことが多くなってきた(ウイキペディア)、とあ
ります。ちなみに、環境=エンバイラメント・Enviro
nmentです。いかがでしょうか。(佐藤輝雄記)

広報委員会からのお知らせ

次号2010年1月号の発送は1月27日(水)午後1時からです。お手伝いいただける方は
ネーチャーセンターまでお越しください。よろしく願いいたします。